

科目名称	理学療法評価学実習
授業コード	BG218
英語名称	Physical Therapy Evaluation Practice
学期	2024年度前期
単位	1.0
担当教員	塚田 絵里子, 奥田 裕, 小山 優美子, 松葉 潤治
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、理学療法治療を進める上での基礎となる理学療法評価の方法の中で関節可動域測定や徒手筋力評価などの項目について、実技実習を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法治療の根拠となる理学療法評価法を理学療法士として臨床経験のある教員が各評価項目の実践的内容を分担して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに挙げられた、理学療法士として臨床場面において必要な評価法の知識と技術を習得できる。 以下を本科目の等到達目標とする。 1. 理学療法評価の意義・目的を理解する。 2. 関節可動域検査および徒手筋力検査の検査・測定方法の手順を理解する。 3. 評価時に必要なコミュニケーションや対象者に対する配慮の仕方を理解する。
計画・内容	第1・2回：科目オリエンテーション 触診（上半身） 担当教員：塚田(理学療法士)/松葉(理学療法士)/奥田(理学療法士)/小山(理学療法士) 第3・4回：触診（下半身） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第5・6回：実技まとめ（触診） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第7・8回：関節可動域測定（小テスト、総論、上肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第9・10回：関節可動域測定（上肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第11・12回：関節可動域測定（下肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第13・14回：関節可動域測定（頸部・体幹） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第15・16回：実技まとめ（関節可動域測定） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第17・18回：徒手筋力検査（総論、上肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第19・20回：徒手筋力検査（上肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第21・22回：徒手筋力検査（下肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山

計画・内容	<p>第23・24回：徒手筋力検査（頸部・体幹） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山</p> <p>第25・26回：徒手筋力検査（復習、小テスト） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山</p> <p>第27・28回：実技まとめ（徒手筋力検査） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山</p> <p>第29・30回：実技まとめ再 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山</p>
授業の進め方	<p>【授業の進め方】 実技の解説および実演を経て、少人数グループに分かれて、実技演習を中心に行う。 また、項目ごとに授業内で実技の確認テストを行い、理解度を確認する。</p>
能動的な学びの実施	<p>解説・実演時の内容を把握し、実技演習回ではスムーズに実技演習ができるように積極的に事前準備をして望む。</p>
授業時間外の学修	<p>【授業時間外の学習(合計60時間程度)】 予習：次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合はそれに従う。 復習：実技の練習を行い、不明な点を確認する。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 * リハビリテーション基礎評価学 第2版,羊土社 * 新・徒手筋力検査法 原著第10版,協同医書出版社 * 運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 上肢,メジカルビュー社 * 運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 下肢・体幹,メジカルビュー社</p>
成績評価方法と基準	<p>【成績評価方法と基準】 実技試験 60%(実技まとめ . . .)+筆記試験 40%で評価する。 実技試験ではルーブリック評価を適用する。 授業参加態度や小テストの実施状況を成績に加味することがある。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>* 実技試験実施後に、内容につき全体にコメントを返す。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquare を参照</p>
留意事項	<p>初回ガイダンスで下記について説明するため、十分に留意すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施項目ごとに使用する教科書が異なるため、間違えないように注意すること ・授業回によって集合する教室が異なる場合があるため、連絡を確認すること ・毎回の授業でケーシー着用とする。そのほか通常授業回、実技試験回で身だしなみについての指定があるため、注意すること ・授業内小テストで基準に満たない場合は再テストを実施する <p>欠席した場合の追テストや再テストを無断欠席した場合には成績に考慮する場合がある</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・zoomによる授業に切り替える（課題学修と組み合わせる場合がある） online授業にて解説および演習をおこなう。 <p>成績評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験成績と授業ごとに実施する理解度確認成績、および出席状況を総合的に評価する（課題提出状況も含む場合がある）